

研究者：吉田 有里（所属：高知県健康政策部 健康長寿政策課）

研究題目：高知県内の重症化した歯周病罹患者における疾患既往歴および生活習慣との関連について

目的：

平成 23 年度に実施した「高知県歯と口の健康づくり実態調査」結果より、40 歳以上の高知県民の 8 割以上が歯周病の症状を有している結果が得られた。一方、高知県では壮年期の男性の早世が課題となっており、心臓病、脳卒中などの生活習慣病による死亡割合が高くなっている。今回、高知県内での歯周病予防対策につなげることを目的として、心臓病、脳卒中、糖尿病の疾患や生活習慣と歯周病との関連を解析して、課題を明らかにする。

対象および方法：

平成 23 年度に、高知県が高知県歯科医師会に委託して実施した、「高知県歯と口の健康づくり実態調査」結果を基に、以下の解析を行った。

1) 「高知県歯と口の健康づくり実態調査」の概要

調査対象は、調査に対し同意が得られた歯科診療所受診者：県内全域 286 ヲ所の歯科診療所、企業従事者：県内 4 事業所、特定健診受診者等：県内 3 市町、介護老人保健施設等入居者：県内 4 施設の合計 2,009 名であり、データはいずれも無記名でデータ番号で管理した。調査の項目は (1) 歯科健診による調査項目として現在歯の状況、喪失歯及び補綴の状況、歯肉の状況、歯石沈着と歯周ポケットの深さ（歯周病進行度の状況）(2) アンケートによる調査項目として、現在治療中の疾患既往歴（糖尿病、脳卒中、心臓病）、食生活など生活習慣にかかる問診項目、歯口清掃にかかる問診項目、歯科受診等の歯科保健行動にかかる問診項目。調査の実施期間は平成 23 年 6 月から 7 月である。

2) 解析方法の概要

上記の得られた調査結果のうち、CPI コード が 0 から 2 までを A 群、CPI コードが 3、4 を B 群とにして、重症化した歯周病有病者（B 群）とそうでない者（A 群）の 2 群に分け、疾患既往歴および生活習慣等との関連について検討を行うこととした。

解析方法は、疾患既往歴については、2 群間での χ^2 二乗検定を行い、生活習慣等については、それぞれ男女別に多変量ロジスティック解析を行った。データについては、記入漏れなど不備のあるものは除外した。

生活習慣等は①歯磨き時の出血、②冷水・温熱痛の既往、③歯間清掃用具の使用、④年 1 回以上の定期歯科健診受診、⑤ 1 日 1 箱（20 本）以上の喫煙、⑥朝食の摂取頻度、⑦年齢について検討を行った。

結果および考察：

疾患既往歴について、それぞれの疾患別のクロス集計表と P 値は表 1 のとおりである。

表 1 疾患別のクロス集計表と歯周病との関連

疾 患		中等度以上の歯周病		合 計	P 値
		A 群 (無)	B 群 (有)		
心臓病	無	675	409	1,084	0.0422 (*)
	有	8	12	20	
	合 計	683	421	1,104	
脳卒中	無	680	414	1,094	0.0372 (*)
	有	3	7	10	
	合 計	683	421	1,104	
糖尿病	無	667	397	1,064	0.0037 (**)
	有	16	24	40	
	合 計	683	421	1,104	

心臓病および脳卒中については有意水準 5% で差があり、糖尿病については有意水準 1% で差がみられた。しかし、疾患罹患者が、心臓病については 1,104 名中 20 名、脳卒中については 1,104 名中 10 名、糖尿病については 1,104 名中 40 名と、それぞれ少数のため、検討の余地はあるが、糖尿病や心臓病、脳卒中などの全身疾患に罹患している者では、重症化した歯周病に罹患している傾向がみられた。

続いて、生活習慣に関連した項目の結果を、表 2 に示す。

表 2 生活習慣に関連した項目と重症化した歯周病罹患状況との関連

男性 n=282	偏回帰係数		標準化係数	P 値	オッズ比の 95% CI		
	B	標準誤差	β		オッズ比	下限値	上限値
①歯磨き時の出血	0.1662	0.2389	0.0888	0.4864	1.18	0.74	1.89
②冷水・温熱痛の既往	0.3612	0.2140	0.2176	0.0914	1.44	0.94	2.18
③歯間清掃用具の使用	-0.1611	0.1643	-0.1242	0.3270	0.85	0.62	1.17
④年 1 回以上の定期歯科健診受診	-0.0948	0.2729	-0.0444	0.7283	0.91	0.53	1.55
⑤1 日 1 箱 (20 本) 以上の喫煙	0.0149	0.1775	0.0107	0.9331	1.02	0.72	1.44
⑥朝食の摂取頻度	-0.0618	0.2135	-0.0379	0.7723	0.94	0.62	1.43
⑦年齢	0.2531	0.0884	0.3838	0.0042**	1.29	1.08	1.53
女性 n=393	偏回帰係数		標準化係数	P 値	オッズ比の 95% CI		
	B	標準誤差	β		オッズ比	下限値	上限値
①歯磨き時の出血	0.5777	0.2059	0.3260	0.0050**	1.78	1.19	2.67
②冷水・温熱痛の既往	-0.3077	0.1972	-0.1838	0.1187	0.74	0.50	1.08
③歯間清掃用具の使用	0.4051	0.1493	0.3116	0.0066**	1.50	1.12	2.01
④年 1 回以上の定期歯科健診受診	-0.5020	0.2293	-0.2475	0.0286*	0.61	0.39	0.95
⑤1 日 1 箱 (20 本) 以上の喫煙	0.7167	0.3531	0.2398	0.0424*	2.05	1.02	4.09
⑥朝食の摂取頻度	-0.4191	0.2212	-0.2170	0.0581	0.66	0.43	1.01
⑦年齢	0.2857	0.0750	0.4449	0.0001**	1.33	1.15	1.54

表2の結果より、⑦年齢については、男女ともに重症化した歯周病に罹患した者（B群）とそうでない者（A群）とで差がみられ、加齢によって歯周病が重症化する傾向がみられた。その他の項目については、男性については両群間に差はなく、女性については両群間で①歯磨き時の出血、③歯間清掃用具の使用、④年1回以上の定期歯科健診受診、⑤1日1箱（20本）以上の喫煙が関連していることが明らかとなった。

女性については、歯口清掃習慣や、自覚症状、また喫煙が重症化した歯周病罹患状況と関連していることが明らかとなり、他の報告でもみられるように、喫煙など不良な生活習慣が歯周病のリスク要因の一つであるという見解とも一致した。しかし、喫煙率が高い男性では、関連がみられなかった。この理由としては、高知県の現状として、歯科以外の健診受診率も男性の方が女性よりも低く、肥満や生活習慣病有病率も高いため、男性の方が健康に関する関心が低いことが指摘されているが、今回の調査についても、女性よりも男性のほうが、自分の健康状態に対する自覚や意識が低かったと考えられる。以上のことより、今回は自己記入式のアンケート調査であり、特に喫煙については、「1日20本以上」という表現であったことから、喫煙者でも喫煙本数を認識していない可能性や、現在の健康状態を自覚していない可能性などが考えられ、男性と女性とで結果が異なったのではないかと推測される。

また、女性については地域や家庭でも中心的な存在となることが多く、本県の調査でも健康づくりに関する意識や関心も比較的高いことが分かっており、全身疾患と歯周病との関連や、歯周病予防に関連した生活習慣予防に関する具体的な知識の普及啓発を行い、家庭や地域での歯周病予防対策につなげていくことが有効である。

成果発表：

日本口腔衛生学会等で口頭発表予定